#### オブジェクト指向プログラミング及び演習2

# GitHubを使った個人開発

## GitHubを使った開発の基本

• GitHubを使うことで、複数人での開発作業だけでなく、個人での開発にも使用できます。

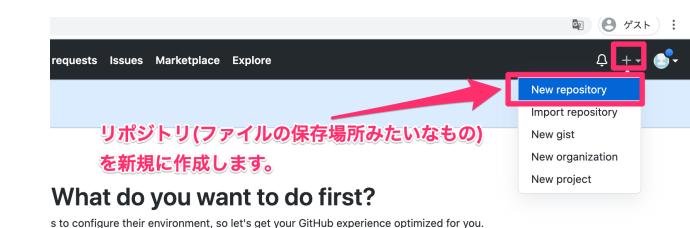
基本の動きとして、個人での開発の流れを確認しましょう。

この資料では、以下の内容を学びます。

- GitHubのリポジトリ(ファイルの保管・履歴管理場所のようなもの) の作成
- ローカルファイルの管理方法(Clone,Add,Commit)
- GitHubへのファイルの追加更新作業(Push)

### リポジトリの作成

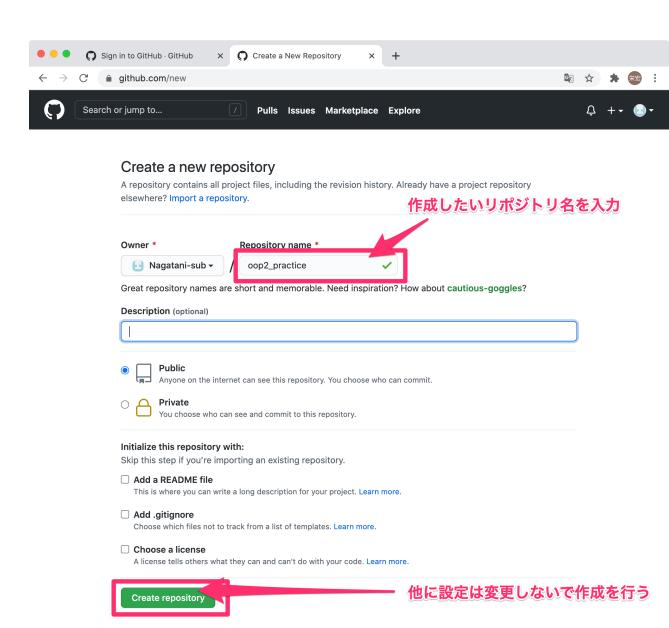
WebブラウザにてGitHubにログイン後、画面右上ユーザーアイコンの左隣の「+」ボタンより、「New Repository」を選びます。



### リポジトリ名の指定

その後表示されるページでは、リポジトリ名を入力します。

とりあえずの動作確認なので、名前に迷ったらリポジトリ名は「oop2\_practice」とでも設定しておきましょう。

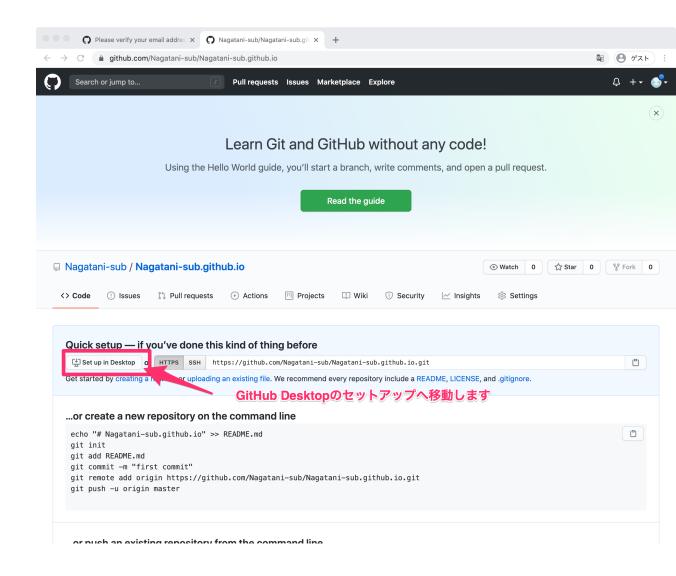


# GitHub Desktop

### 用意

次は、GitHub Desktopをインストールして、公開するファイルの追加します。

まだインストールをしていない方は右図のボタンより、ダウンロードとインストールを 行ってください。



### ファイルの追加編集

GitHub Desktopをインストール、起動、サインインを済ませ、以下の手順に従い、自分のPC上へリポジトリをCloneします。

- 1. GitHub Desktopのアプリを開いた後、画面上部のメニューより、「File」→「Clone Repository」を選択
- 2. GitHub.comのタブより、先程作成したリポジトリを選択
- 3. 自分のPC上で保存する場所をLocal Pathに設定
- 4. cloneボタンをクリック
  - ローカルにリポジトリのクローンが生成されます以降はローカルのファイルに追加変更を加えます。

#### GitHub DesktopからVSCodeやFinderを開く

GitHub Desktopのメニューには、「Repository」があり、ここには以下の便利な外部ツール立ち上げ機能があります。

- View on GitHub ブラウザを起動して該当のリポジトリページを開く
- Open in Terminal ローカルの保存先をターミナルで開く
- Show in Finder ローカルの保存先をFinderで開く
- Open in Visual Studio Code ローカルの保存先をVSCodeで開く
  - これは、Preferencesで使用するテキストエディタを設定してい ないと使えません。

### リポジトリへの新規コミット

次はローカルに作成したリポジトリのクローンに対して、変更を加えます。

- 1. Repositoryメニューの「Open in Visual Studio Code」を選択して VSCodeを起動(開いた場所を便宜上プロジェクトディレクトリと呼 びます。)
- 2. プロジェクトディレクトリに、 modules ディレクトリを作成
- 3. 次項で示す2つのコードを下記の場所にそれぞれ作成
  - modules ディレクトリに SayHello.py を作成
  - プロジェクトディレクトリ直下に main.py を作成

#### modules/SayHello.py

```
class SayHello:
    def __init__(self, target="World"):
        self.target = target
    def say(self):
        print(f"Hello, {self.target}!!")
if __name__ == '__main__':
    app = SayHello()
    app.say()
    app = SayHello("Someone")
    app.say()
```

#### main.py

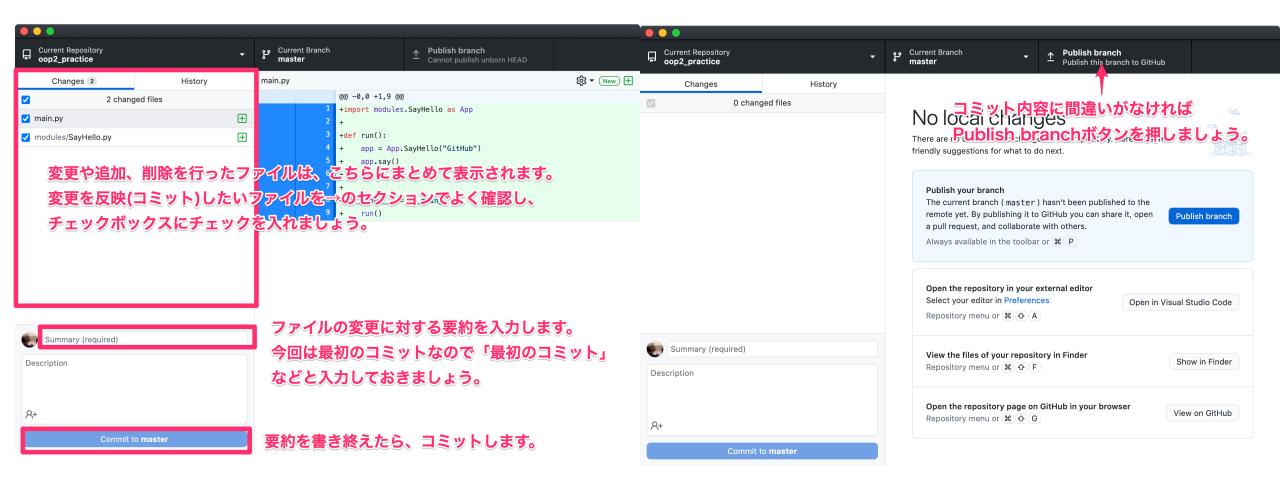
```
import modules.SayHello as App

def run():
    app = App.SayHello("Git")
    app.say()

if __name__ == '__main__':
    run()
```

作成できたら手元で動作確認の上、次項の手順に従い、インターネット上のリポジトリにプッシュしましょう。

#### 変更内容を適用(Commit)し、それをリモートへ反映(Push)させます。



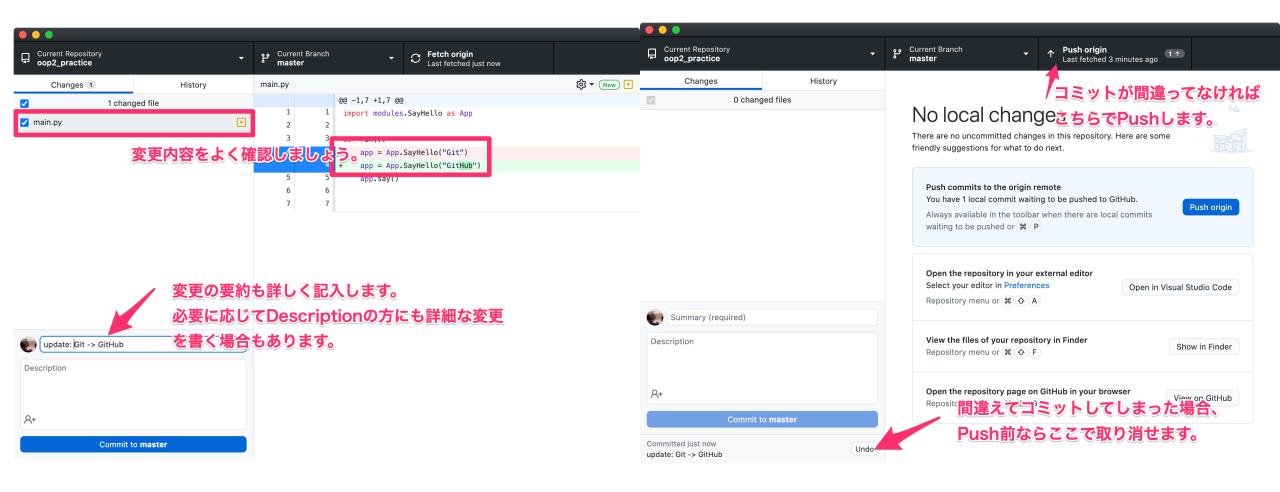
### コードを変更する

プッシュが終わると、GitHubのリポジトリにアップロードされているのが確認できるはずです。Repositoryメニューの「View on GitHub」で確認しましょう。

先程作成したプログラムにて、 Hello, Git!! と出力している箇所を Hello, GitHub!! となるように変更しましょう。

変更を保存して、動作確認を行ったら、再度GitHub Desktopに画面を切り替え、次項での説明を読みながら変更をコミット、プッシュしましょう。

#### Push後、GitHubのページをリロードして確認しましょう。



#### 個人開発におけるGitHubの役割

ソースコードの変更ログを残すことができることと、いざというときのバックアップ、他の人へ自分が作ってきたものを見せる場にもなります。積極的にインターネットへ公開しましょう。

もちろん、以下のような注意点もあります。ご注意ください。

- Publicなリポジトリは、インターネット上で公開されている
  - 法的に問題のあるコード(他者の著作権を無視する,攻撃性の高い ものを攻撃性があるようにして公開するなど)を公開しないこと
  - 他のシステムへの認証キーなどを誤って公開しないこと

#### GitHubでの個人開発まとめ

個人開発では、コードを書いてデバッグしてはインターネットへ公開 する単純な作業です。

普段のプログラミング(だけじゃなくてもOK)でも、GitHubのプライベートなリポジトリを作成し、そこへPushしておくと癖をつけると、「あのコードどこで書いたっけ…」ということが少なくなります。さらに、PCの故障の際にも強くなります。

個人開発は一人での作業なので予期せぬコードの重複や衝突などは起きにくいためシンプルですが、複数人での開発となると途端に難易度が上がります。が、複数人での開発にはそれに合わせた開発手法があります。次の資料からは、グループでの作業となります。